

● 構造・防災調査

- ◆実測調査を行った主屋の中から数例ほど耐震診断を行い、菅並集落における主屋（余呉型民家）の耐震性能に関する特徴を把握し、耐震補強方針の検討を行った。

② 民俗調査

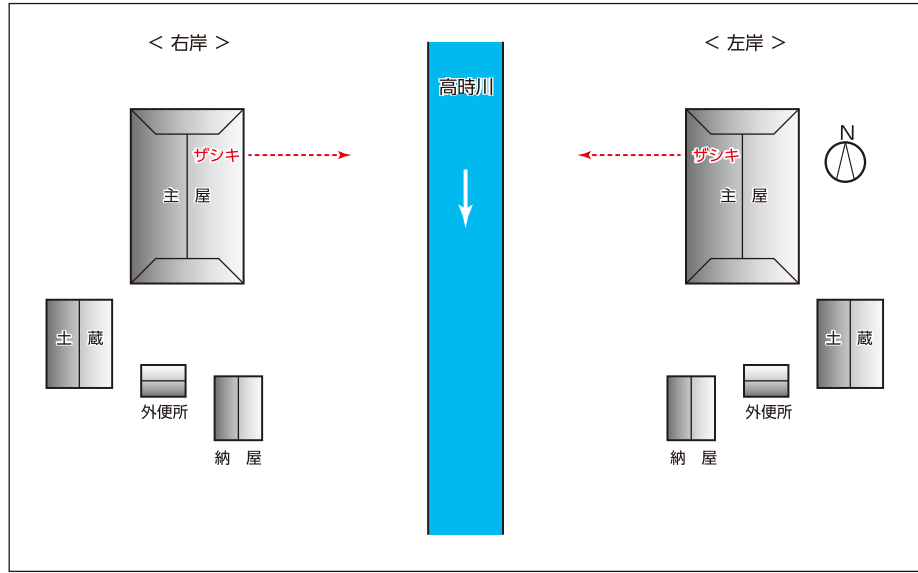
高度経済成長期以前の時代に焦点をあて、聞き取り調査等のフィールドワーク、過去の民俗調査データや調査報告書などをもとに、菅並集落の村落空間（集落空間・耕地空間・山野空間）をまとめ、相互の関係について考察した（表表紙「菅並集落内の水路図」）。

③ 歴史調査

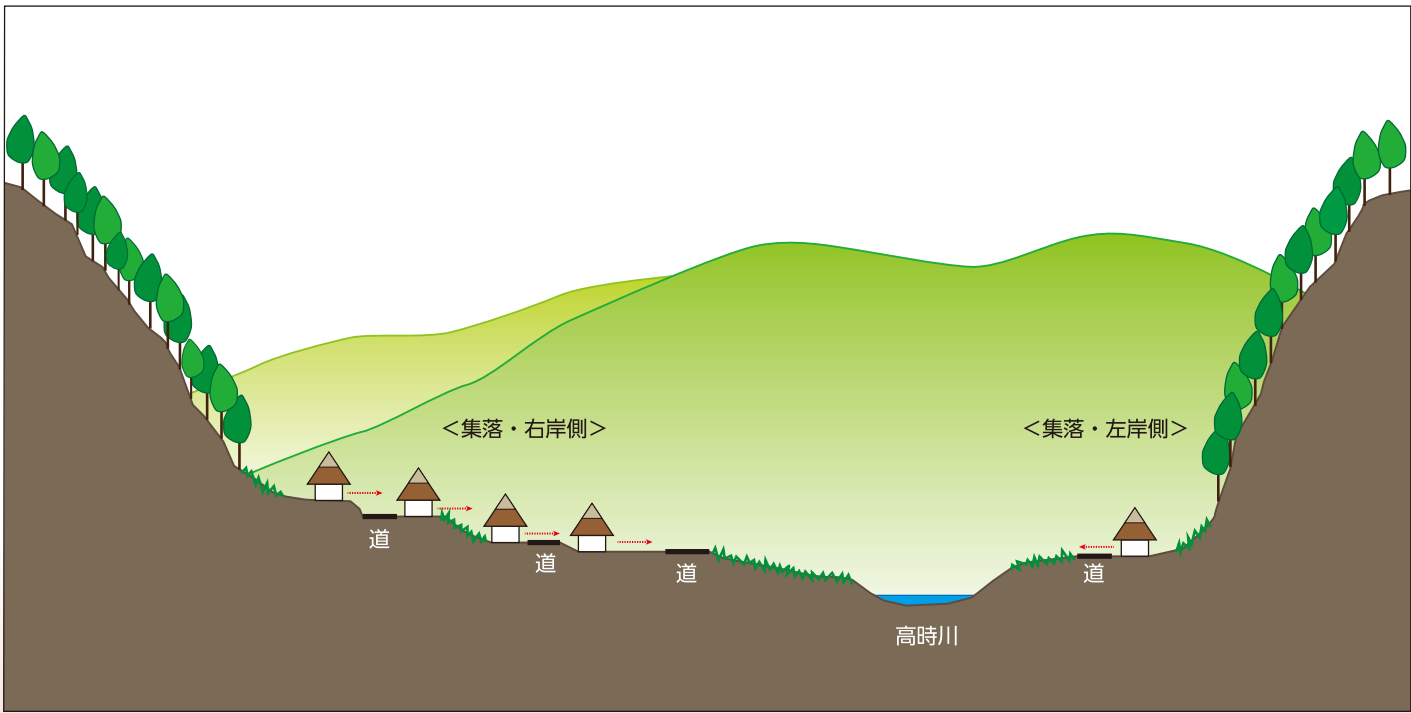
菅並集落の古文書（主に、集落景観や建物に関するもの）の写真撮影や目録作成を行った。また、古写真（集落内の建物・風景を中心に）の収集・データ化を行った。



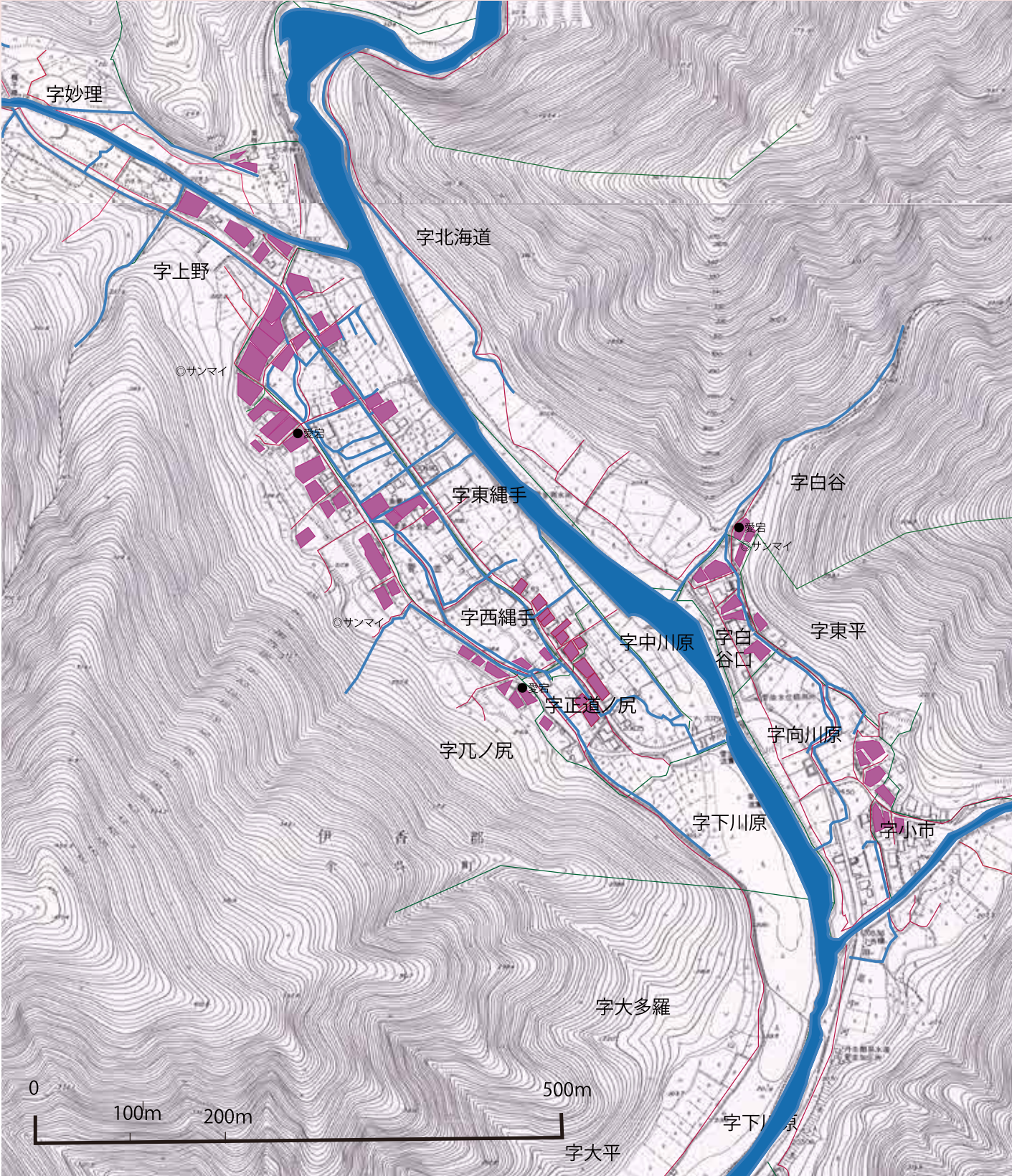
土蔵(029-2)構造模式図



菅並集落の屋敷配置モデル図



菅並集落景観の断面モデル図



菅並集落内の水路図（赤：明治期の宅地、青線：集落内水路）

令和5（2023）年3月

菅並集落伝統的建造物群保存対策調査 概報Ⅲ

制 作：滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 石川慎治

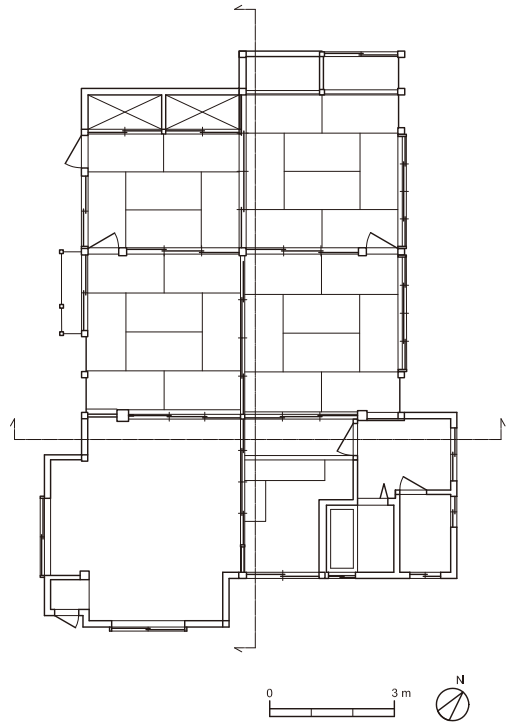
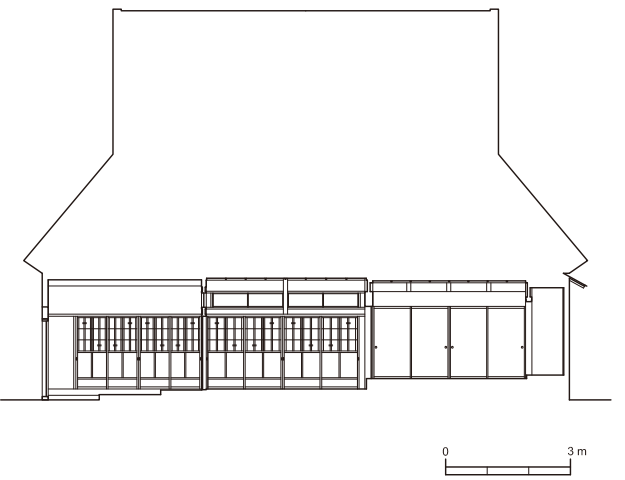
編 集：長浜市市民協働部歴史遺産課

発 行：長浜市

発行所：谷口印刷株式会社

長浜市余呉町

菅並集落 伝統的建造物群 保存対策調査 概報Ⅲ



2023.3
長浜市・滋賀県立大学

■ 概 要

長浜市余呉町菅並（以下、菅並集落）は、「余呉型」と呼ばれる茅葺民家（以下、余呉型民家）がまとまって残り、全国的に見ても貴重である。

この余呉型民家とは、滋賀県内の北東部、米原市から福井県や岐阜県の県境にかけて分布する民家の形式の一つであり、①広間型三間取りの広間部分（土間際の広い室）を土座とする、②土間・土座に十字に組んだ梁を架けてその内部には柱を建てないといった特徴を有する。なお、土座を持つ民家は、寒冷地に多くみられたが、その名残を残す民家は全国でも少なくなっている。

また、菅並集落の余呉型民家が建つ敷地は、土蔵や隠居屋などの付属屋や田畑などで構成されており、菅並集落は、旧余呉町内でも伝統的な景観をよく残している。

■ 伝統的建造物群保存対策調査

貴重な建造物と伝統的な景観を伝える菅並集落だが、山間部に位置することもあり、近年集落を離れる人や少子高齢化が進み、集落自体の存続が危機的な状況にあり、空き家となった民家の解体や放置が進んだ状態である。そのため、全国的に希少な集落の価値を再確認し、今後それらを活かしたまちづくりを行うことで、将来的な集落の維持を行うことが必要である。

この事業では、菅並集落の民家や集落の歴史・民俗・環境を把握するため、令和2年度から4年度に文化庁の補助金を得て伝統的建造物群保存対策調査を実施した。調査は、長浜市の委託のもと滋賀県立大学（民俗・歴史調査では共同調査）が担当し、その成果は、菅並集落伝統的建造物群保存対策調査報告書としてまとめられた。

【調査担当者】	①建造物調査	滋賀県立大学環境科学部 高田豊文 教授／高屋麻里子 講師
		滋賀県立大学人間文化学部 津崎一志 元教授／石川慎治 教授
	②民俗調査	滋賀県立大学人間文化学部 市川秀之 教授
	③歴史調査	滋賀県立大学人間文化学部 東 幸代 教授

① 建造物調査

菅並集落の建造物についての記録を行い、集落内における余呉型民家の特徴・変遷などを考察した。

● 実測調査（建物）

◆主屋18棟、隠居屋6棟、土蔵8棟、付属屋3棟、社寺建築11棟の実測調査を実施した（P3.「調査建物分布図」、P4.「調査建物一覧表」）。

〈主 屋〉

- 今回の調査と先行研究の成果をもとに、編年表を作成した（P5.「主屋平面の編年表」、P6.「主屋断面の編年表」）。
- 標準的な江戸期・明治期の主屋（余呉型民家）には、茅葺（荻首組）・入母屋造・妻入り・南入口・広間型三間取り・上屋梁の幅2間半・縁側なし・屋根勾配は約50度といった特徴がみられる。大正期の主屋になると、瓦葺（和小屋）・十字梁構造の消失といった変化がみてとれるが、間取りについては、依然、江戸期・明治期と類似したものが多かったと推測される。また、実測調査を行った18棟の主屋のうち、5棟は移築、2棟は移築の可能性のある主屋であった。

〈隠居屋〉

- 二間取りが標準的であったと考えられる。
- 茅葺の隠居屋は主屋（余呉型民家）と同じく十字梁構造であった。ただし、現在は、茅葺から瓦葺へ屋根替えをしたものが多い。
- 〈土 蔵〉
- 切妻造・置屋根形式、現在はほぼ瓦葺であるが、もとは茅葺・板葺・杉皮葺の土蔵もあった。構造は、地棟と登梁を用いている（P2.「土蔵（029-2）構造模式図」）。なお、切妻屋根の妻面において、外壁の半間外側に板張りの壁を建て、ケラバ（切妻屋根の妻側端部）の下を内部化する土蔵が数棟見られた。

〈社寺建築〉

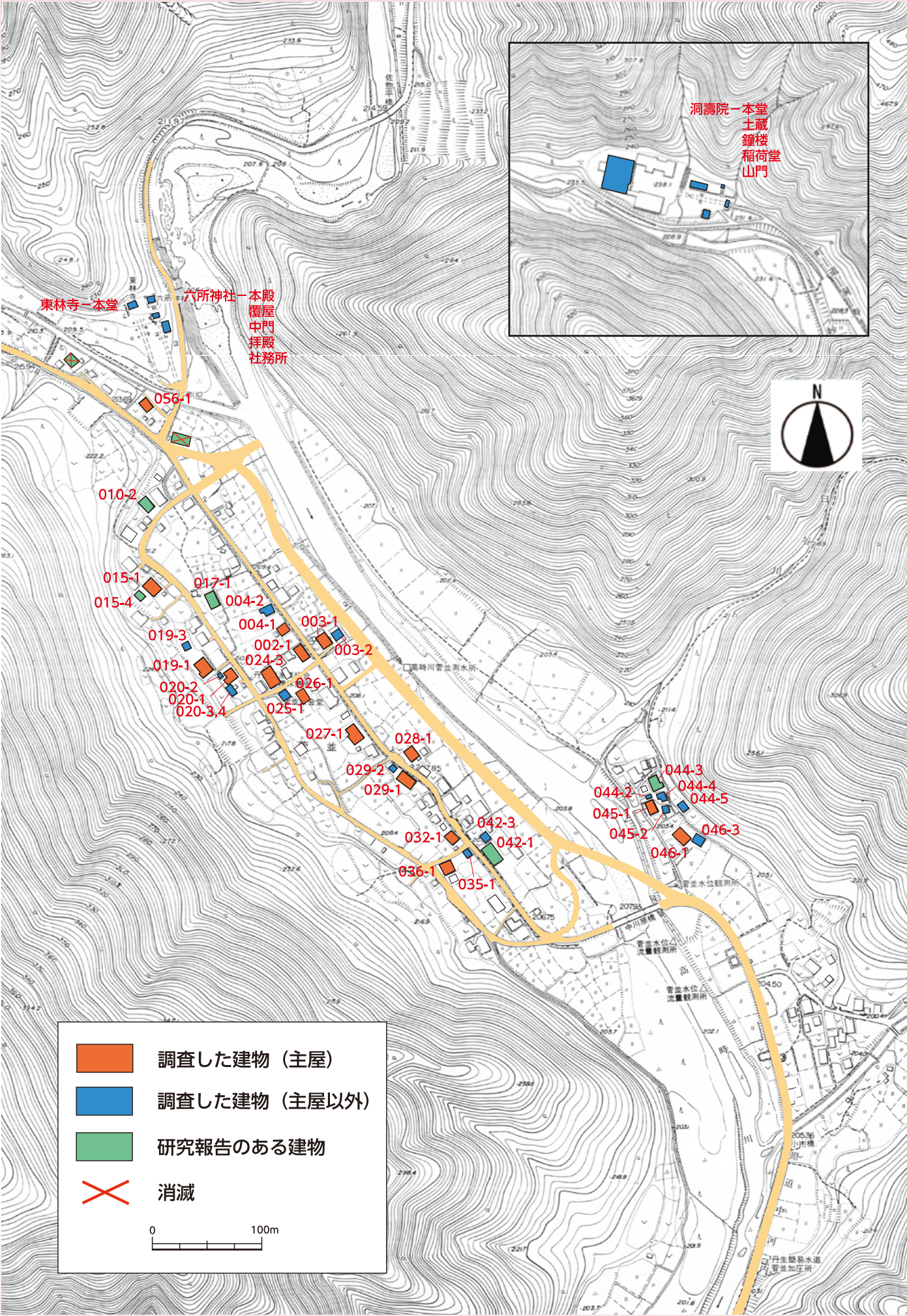
- 集落北側にある六所神社、東林寺、洞壽院の主要建造物について調査を行い、主要建造物の建築年代を推定することができた。

● 集落景観調査

- ◆ドローンによる空中写真撮影（撮影協力：草野保徳氏）を行い、菅並集落の四季の移り変わりや、現在の各屋敷の建物配置を記録した。

● 集落調査

- ◆『大字菅並家屋台帳』（昭和4年以前作成）、『家屋調査台帳』（昭和26年作成）と、令和2年のデータをもとに、菅並集落の景観変化を考察した。
- ◆『家屋調査台帳』の記載をもとに、昭和26年の集落内の建物配置の復元を試みた。また、主屋から見た土蔵・納屋・便所の方角を集計したところ、菅並集落では、主屋の下手側（南西・南・南東）に土蔵・納屋・便所を配置する傾向がみられた（P2.「菅並集落の屋敷配置モデル図」）。
- ◆菅並集落にある主屋では、高時川の左岸側・右岸側ともに、高時川に座敷を向ける建て方の傾向が見てとれた。また、主屋は南側を妻入りとし、規則正しく並び、南妻側屋根を一部切り上げた明かり窓が集落景観にアクセントを加えている（P2.「菅並集落景観の断面モデル図」）。



調査建物分布図 (令和2～4年度)

調査建物一覧表 (令和2～4年度)

主屋	建築年代	当初の間取り	上屋 (梁間×桁行)	付確端	上屋筋の 大黒柱の省略	ザシキ・ネマ 境の柱の省略	屋根形式	屋根材	屋根材 (昭和26年)	移築	備考
002-1	江戸後期	広間型三間取	2間半×5間	×	○	×	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
003-1	江戸末期	広間型三間取	3間×5間	○	×	×	切妻造	瓦葺	茅葺	○	
004-1	大正5(1916)	その他	2間×3間半	×	-	-	切妻造	瓦葺	瓦葺		
010-2	明治前期	広間型三間取	2間半×5間	-	○	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
015-1	江戸末期	広間型三間取	2間半×5間	○	○	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
017-1	明治20(1887)	広間型三間取	2間半×5間	-	○	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
019-1	江戸後期	広間型三間取	3間×5間	○	×	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
020-1	明治22(1889)	広間型三間取	2間半×4間	○	○	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺	○	
024-3	明治21(1888)	広間型三間取	3間×5間	×	×	○	切妻造	瓦葺	茅葺		屋根替え
026-1	大正2(1913)	広間型三間取	3間×5間	×	×	○	切妻造	瓦葺	瓦葺		
027-1	江戸末期	広間型三間取	3間×6間	○	×	○	切妻造	瓦葺	茅葺	○	屋根替え
028-1	江戸末期	広間型三間取	2間半×4間半	×	○	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺	△	
029-1	江戸後期	広間型三間取	3間半×5間半	○	×	×	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
032-1	江戸後期	広間型三間取	2間半×4間半	○	×	×	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
036-1	明治5(1892)	広間型三間取	2間半×4間半	×	×	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺	○	
042-1	明治中期	広間型三間取+2室	3間×7間半	-	×	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
044-3	江戸末期	広間型三間取	2間半×4間半	○	○	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
045-1	江戸後期	広間型三間取	2間半×4間半	○	×	×	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
046-1	昭和5(1930)	広間型三間取	2間半×5間半	×	×	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺	○	
056-1	江戸後期	広間型三間取	2間半×4間半	○	×	×	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺		
消滅①	江戸後期	広間型三間取	2間半×4間半	-	○	○	入母屋造	金属板葺(茅葺)	茅葺	○	1991年調査時
消滅②	江戸後期	広間型三間取	2間半×4間半	-	○	○	入母屋造	茅葺	茅葺		1991年調査時

隠居屋	建築年代	当初の間取り	上屋 (梁間×桁行)	屋根形式	屋根材	屋根材 (昭和26年)	備考
003-2	昭和5(1930)	一間取(2階建)	2間×1間半	切妻造	瓦葺	板葺	後に土蔵に増築
004-2	大正前期	四間取	2間×3間半	切妻造	金属板葺	板葺	
020-4	-	一間取	2間×2間	切妻造	瓦葺	杉皮葺	土蔵が接続
025-1	大正10(1921)	その他	3間×3間半	切妻造	金属板葺	-	屋根替え
035-1	-	その他	2間×3間	切妻造	金属板葺	-	屋根替え
044-5	-	その他	2間半×4間	切妻造	瓦葺	茅葺	屋根替え、移築?

土蔵	建築年代	平面 (梁間×桁行)	平・妻	屋根形式	屋根材	屋根材 (昭和26年)	備考
003-2	江戸後期	2間×3間	妻入り	切妻造(置屋根)	瓦葺	板葺	後に隠居屋が増築
015-4	江戸後期	2間×3間	妻入り	切妻造(置屋根)	金属板葺(茅葺)	茅葺	
019-3	-	2間半×3間	平入り	切妻造	瓦葺	杉皮葺	
020-3	-	2間×2間半	平入り	切妻造(置屋根)	瓦葺	茅葺	隠居屋が接続
029-2	-	2間余×2間半	妻入り	切妻造(置屋根)	瓦葺	瓦葺	
042-3	-	2間×4間	平入り	切妻造(置屋根)	瓦葺	瓦葺	移築の可能性
044-4	江戸末期	2間×3間	妻入り	切妻造(置屋根)	瓦葺	瓦葺	
046-3	-	2間×2間半	平入り	切妻造(置屋根)	瓦葺	杉皮葺	

付属屋	建築年代	平面 (梁間×桁行)	平・妻	屋根形式	屋根材	屋根材 (昭和26年)	備考
020-2	-	1間半×2間	妻入り	切妻造	金属板葺	-	倉庫
044-2	-	半間×1間半	平入り	切妻造	瓦葺	瓦葺	便所
045-2	-	1間半×3間	妻入り	切妻造	金属板葺	-	倉庫、移築

社寺	建 物	建築年代	屋根形式	屋根材	備考
六所神社	本殿	-	流造	板葺	一間社
六所神社	鞘堂	明治27(1894)	切妻造	金属板葺(茅葺)	
六所神社	中門	大正3(1914)	切妻造	金属板葺	薬医門
六所神社	拝殿	明治42(1909)	入母屋造	金属板葺(茅葺)	
六所神社	社務所	大正3(1914)	切妻造	金属板葺	
東林寺	本堂	-	入母屋造	金属板葺(茅葺)	
洞壽院	本堂	大正後期	入母屋造	金属板葺	
洞壽院	土蔵	-	切妻造	瓦葺	置屋根
洞壽院	鐘楼	大正後期	切妻造	瓦葺	
洞壽院	稲荷神社	大正後期	流造	金属板葺	棟札、棟札写し
洞壽院	山門	大正後期	切妻造	金属板葺	四脚門



主 屋 (017-1)



隠居屋 (044-5)



土 蔵 (029-2)



社 寺 (洞壽院・本堂)

主屋平面の編年表

江戸後期	江戸末期	明治期	大正期
002-1		036-1 (M5 移築)	026-1 (T2)
	003-1 (移築)		
019-1	015-1	042-1 ※ (M18)	004-1 (T5)
029-1			
	027-1 (移築)	017-1 ※ (M20)	
032-1 (移築?)			
	028-1 (移築?)	024-3 (M21)	
045-1			
	044-3	020-1 (M22 移築)	
056-1			
消滅① ※ (移築)	消滅② ※	010-2 ※ (M前期)	

※「高時川ダム建設地域民族文化調査報告書」(1991年)より転載

主屋断面の編年表

江戸後期	江戸末期	明治期	大正期
002-1	003-1 (移築、屋根替え前)	036-1 (M5 移築)	026-1 (T2)
	015-1	042-1 ※ (M18)	004-1 (T5)
019-1			
	027-1 (移築、屋根替え後)	017-1 ※ (M20)	
029-1			
	028-1 (移築?)	024-3 (M21)	
045-1			
	044-3	020-1 (M22 移築)	
056-1			
消滅① ※ (移築)	消滅②	010-2 ※ (M前期)	

※「高時川ダム建設地域民族文化調査報告書」(1991年)より転載